

神戸商工会議所 経営経済四半期動向調査（2026年1～3月期）調査結果

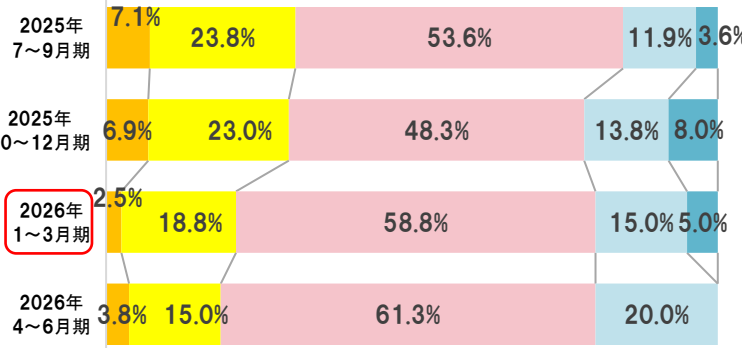
●調査対象 神戸商工会議所会員80事業所／対象101事業所
●調査時期 2026年3月2日～13日

●調査内容 1～2：定期調査 / 3～4：付帯調査

1. 各社の業況について

◆今期(1～3月)は、「良い」・「どちらかと言えば良い」が8.6ポイント減少し、2割強を占め、「変わらない」が10.5ポイント増加し、6割弱を占めた。景況は横ばい、弱含み傾向が続いている。
◆来期(4～6月)の予測は、「変わらない」が6割強を占め、景況改善を見込む声は限定的で先行きを警戒する向きがさらに強くなっている。
◆本調査時点で中東情勢による悪影響はさほど織り込まれていない。

(前期に比べて) ●良い ●どちらかと言えば良い ●変わらない ●どちらかと言えば悪い ●悪い



前期との比較 10～12月 →1～3月	良い / どちらかと言えば良い		どちらかと言えば悪い / 悪い	
	29.9%→21.3%	▲8.6	21.8%→20.0%	▲1.8
主な業種	金属被覆・彫刻業、輸送用機械、医薬品製造業、電気工事、総合建設など		食堂・レストラン、食品小売、自動車小売、ファッション小売、ホテルなど	

(参考) 前回調査時 2026年1～3月期 予測



2. 各社・業界での特徴的な動きなど

(1) 原材料・エネルギー・人件費等のコスト

○抹茶ブームにより補助金がついており、お茶用の被覆資材の需要も高い。【化成品等製造】

○来期に向け生産量増加見込みで生産体制構築中。【原動機製造】

●円安で原材料高騰し、仕入先からの値上げ要請が相次ぐ。【医療機器卸売】

●海洋資源枯渇や原価高騰で仕入価格上昇が止まらない。【食品小売】

●円安とドルベースの原料高で製造原価上昇し、収益圧迫。【食品加工】

●円安で原材料費が高騰している。【菓子製造・販売】

●円安による原材料費高騰や中国の独占によるレアメタル価格の高騰。【金属被覆・彫刻業】

(2) 人手不足・人材確保・採用

○首都圏の就活イベントに参加し、人材獲得に注力している。【セメント・同製品製造業】

○採用イベント、大学訪問、派遣受入れ等多面的に新卒採用・定着を図っている。【総合建設】

○社内アカデミー制度整備で若手定着や育成に取り組んでいる。【一般土木建築工事業】

●人手不足・採用難が続く、労務費上昇が大きい。【設備工事】

●新卒採用が困難で初任給上昇に対応しきれない不安。【土木工事】

●監理技術者・技能労務者の慢性的不足で新企画参画が制約されている。【総合建設】

●中途採用を含め採用が困難。【各種食品小売業】

(3) 価格転嫁・個人消費の動向

○食品・飲食・化粧品・スキンケア等は購買意欲が高く、特需分野が存在する。【商店街】

○売上は上がっている（需要はある）が仕入高で利益が圧迫されている。【食堂・レストラン】

●物価・材料・人件費の高騰により商品上代を上げざるを得ない。【衣服・繊維製品製造業】

●物価上昇による買い控えが影響している。【食品小売】

●円安や人手不足によるコスト増を価格転嫁できず市場で苦戦している。【靴】

●原材料、資材の高騰が続く、値上げを実施している。【菓子製造・販売】

(4) その他（海外情勢・生成AI・インバウンドなど）

○自治体ニーズに合った取り組み、入札参加など積極的に動き始めている。【バス・タクシー】

○生成AIによる業務効率化が進んでいる。【弁理士】

○製造業中心にAI活用の機運が高まっている。【ソフトウェア業】

●日中関係悪化や米国政策（関税・中東情勢等）で世界市場が不透明。【電気機械製造】

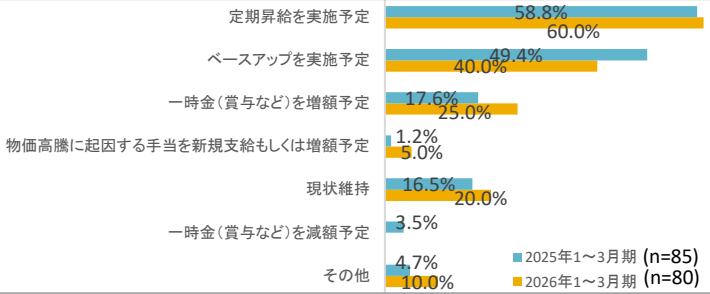
●インバウンド（特に中国）大幅減で三宮の飲食、卸に大きな影響。【食肉小売・飲食店】

●訪日中国人減や中東情勢で海外旅行需要が萎縮。【旅行】

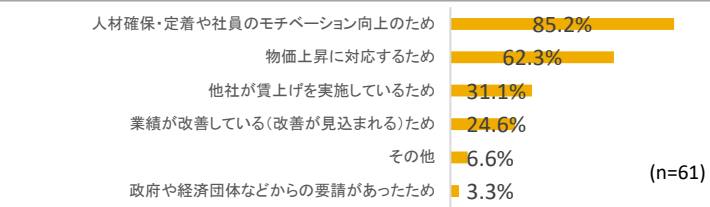
●中東戦争の影響で原材料高騰の可能性。【機械器具卸売】

3. 賃金の動向について

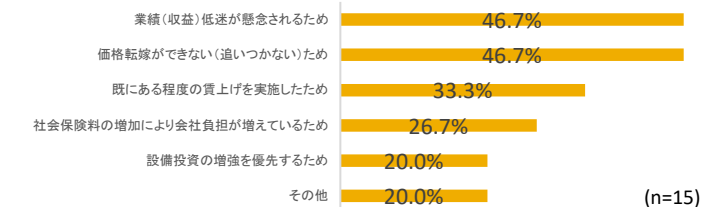
2026年度の正社員の賃金状況について尋ねたところ、昨年同様に「定期昇給を実施予定」が60.0%と最も多い。次いで「ベースアップを実施予定」が40.0%と続いたが昨年より9.4ポイント減少。また、「一時金（賞与など）を増額予定」が7.4ポイント増加し、25.0%となった。（複数回答）



賃上げを実施する理由について尋ねたところ、「人材確保・定着や社員のモチベーション向上のため」が85.2%と最も高く、次いで「物価上昇に対応するため」が62.3%と続いた。（複数回答）

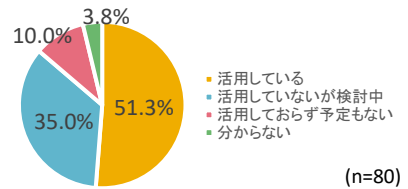


賃上げを実施しない（しづらい）理由について尋ねたところ、「業績（収益）低迷が懸念されるため」・「価格転嫁ができない（追いつかない）ため」が46.7%と最も高く、次いで「既にある程度の賃上げを実施したため」が33.3%と続いた。（複数回答）

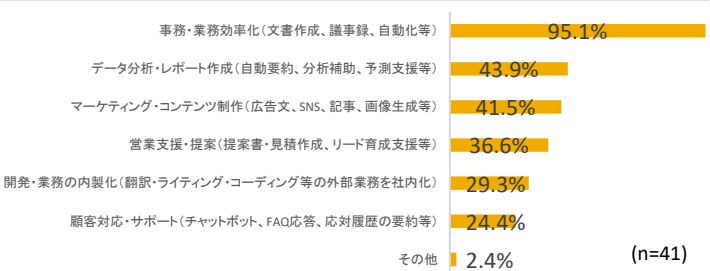


4. 生成AIの活用状況について

生成AIの活用状況について尋ねたところ、「活用している」が51.3%と半分以上を占め、次いで「活用していないが検討中」が35.0%と続いた。



生成AIを現在活用している業務・分野について尋ねたところ、「事務・業務効率化」が95.1%と最も高かった。（複数回答）



生成AIの導入・活用を進める上での課題や懸念について尋ねたところ、「生成物の信頼性（誤情報など）リスク」が58.8%と最も高く、次いで「人材不足（AI人材・運用担当者）」が55.0%と続いた。（複数回答）

